熊野方面史跡めぐり歌日記（１）

長崎史談会相談役　宮川雅一

平成25年9月10日第五回長崎史談会研修旅行「熊野方面史跡めぐり」に参加する。原田会長はじめ総勢39名。女性23名・男性16名。ありがたくも今回も、西脇幹事の乗用車に便乗して大村まで行き、皆さんと合流して大阪空港まで飛行機で飛ぶ。

1、 去来忌や　田上の尼(あま)の　供をして
尋ねし熊野　我も廻らん

9月10日は、長崎生まれの蕉門の俳人・向井去来(1651～1704)の命日。元禄2年(1689)5月上京した伯母の田上の尼こと久米勝(1645～1719)と同行して、亡妹の千子こと清水千代(1653頃～88)の供養に熊野を巡礼、「逗留の窓に落つるや栗の花」などの句を残す。

2、 雲の上　ふと浮かびくる　去年(こぞ)の旅
五箇山ささらの　音ぞなつかし

昨年は第四回史談会研修旅行「富山県高岡方面史跡めぐり」に行き、世界遺産の合掌造りで有名な五箇山でささらを振って踊る「こきりこ節」を鑑賞した。吉野熊野も世界遺産。

3、 板付より　我らを乗せて　運転手
まず太陽の塔を指差す

バス旅行の良し悪しはまずその運転手によって大方決まる。小柄ながらはきはきした今回の大阪の運転手さんはいい人であった。出発早々に出会った万博記念公園に残る岡本太郎の太陽の塔の説明をするなど往還とも地元の大阪エリアでは特別熱心にガイドをしてくれた。太陽の塔に挨拶したのがよかったのか3日間とも好天気に恵まれた。

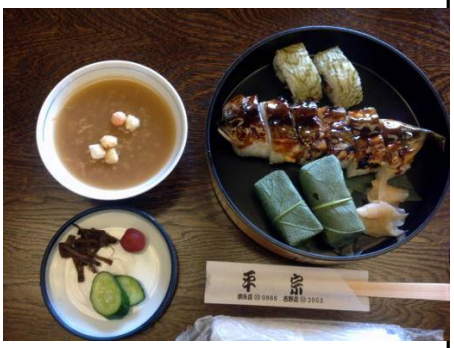
4、 火曜日は　定休日なり　道の駅
川辺の店も　宿の女将も

大阪から奈良へと入り、壷坂寺の南にある道の駅「吉野路大淀センター」に停車するが売店は閉まっている。少し走った川べりの店もお休み、それぞれ手洗いだけ借りて最初の目的地へ急ぐ。その日の夜の宴席に女将の姿がなかったのでこんな歌ができた。

5、 吉野なる　金峯山寺(きんぷせんじ)は修験の地
バス二時間も　歩くも修行

本寺は役ノ行者開創の金峯山修験本宗大本山で蔵王権現を祀る。修験道の本場であるが、水銀などが採れた鉱山だったらしいとの原田会長の説明を聴く。蔵王堂・二天門(国宝)や青銅の鳥居の大きさに驚きつつ、元気一杯の会長に従って坂道や石段を歩きに歩く。

6、 飴色の　艶も豊かに　鮎一尾
鯖ずし供に　寿司桶のなか



昼食は平宗吉野本店の茶がゆ料理。吉野川を眺めながら、頭から尻尾までの鮎寿司、柿の葉で包んだ鯖ずし2個、とろろ昆布巻きのすし2個を平らげる。ほかに茶がゆもお替り付きであって、7時間ぶりの食事とはいえ、自分でもよく食べれたものだと思う。

7、 山また山　川また川の　熊野路は
今年旱魃　土色目立つ

料理屋まで歩く道が長く、しかも昼食がご馳走だったので時間がかかり、先を急ぐ。一昨年の風水害による山崩れの地肌に加えて、今年の旱魃による水量不足で川底が広く現れていて、憧れていた水と緑のしたたる絶景がいささか損なわれている。

8、 新宮は　丹(に)塗りの御門(みかど)大社(おおやしろ)
元の宮居が　山上に残る

熊野三山は、本宮大社、速玉大社および那智大社で構成。新宮といわれるが速玉大社が本宮大社より新しいわけではなく、次ということ。かつてはすぐ近くの山の上にあって、旧社が残っていて、バスの窓から会長が指差す方向を探して見付けることができた。

9、 今日十日　城戸先生の　誕生日
祝杯挙げる　南紀勝浦

海岸にある第一日目の宿舎、勝浦温泉「かつうら御苑」に到着し、入浴後大広間で宴席を張る。同年令の県職組出身元県議・城戸智恵弘氏の誕生日と分かり、早速祝杯を挙げる。（続く）